

Eat Well, Live Well.



資料 2

**食品産業分野の働き方改革検討会
～ダイバーシティを加速させる「味の素流働き方改革」～**

**2018年2月21日
味の素株式会社
グローバル人事部**

創業の志(こころざし)

Eat Well, Live Well

“佳良にして廉価なる調味料を造り出し
滋養に富める粗食を美味ならしめること。”

～ うま味を通じて日本人の栄養を改善したい ～

池田 菊苗



「うま味」の発見

1908年

池田 菊苗



池田菊苗博士が
昆布から抽出した
グルタミン酸



最初の「味の素®」

創業

1909年

二代 鈴木 三郎助



事業の広がり、事業規模

商品の展開
130 超の国・地域

事業の展開
30 の国・地域

従業員
32,734 名
(単体 3,459 名)

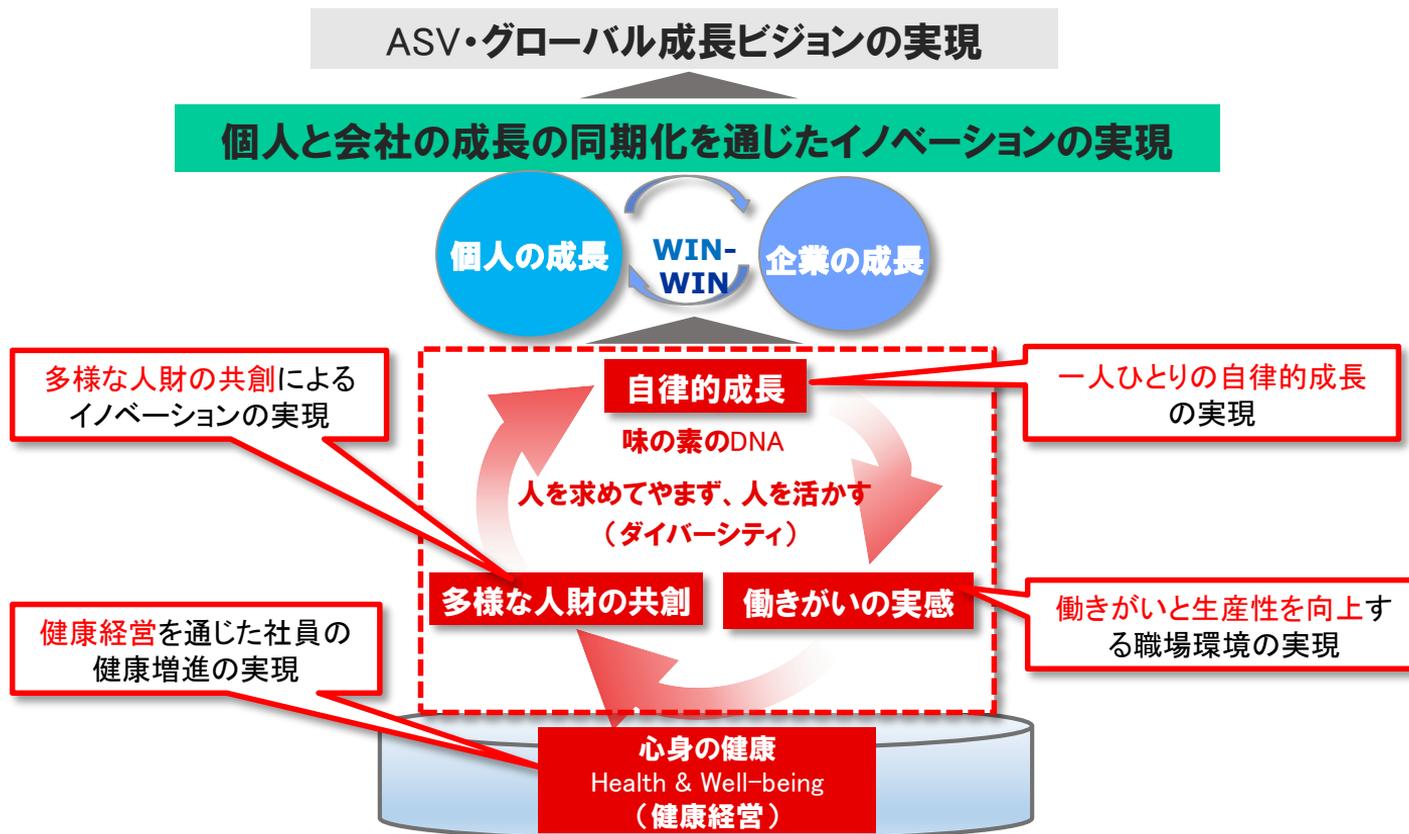
売上高 (IFRS)
1兆 911 億円

※2016年度

※2017年3月31日時点

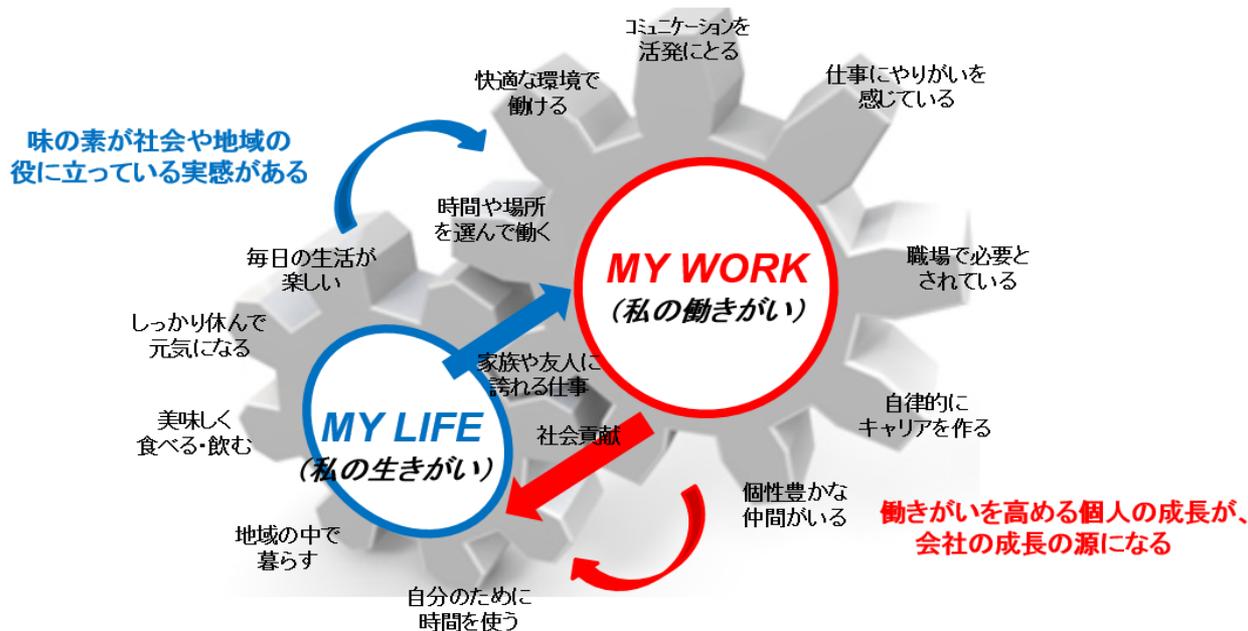


グローバル人財マネジメント改革の基本方針



「働き方改革」の目的

味の素流の働き方を確立し、働きがいと生きがいの両立を図る



性別・国籍・価値観等に関わらず、多様な人財が活躍できる会社を目指し、グローバル食品メーカートップ10にふさわしい生産性の高い「働き方」を実現している。

「働き方改革」の施策(過去からの流れ)

- 2008年 「味の素グループ WLBビジョン」策定
- 2009年 再雇用制度導入
- 2010年 育短勤務の利用期間拡大(小学校3年生末まで)、
育児休職15日分有給化
- 2011年 女性初の執行役員・事業部長・取締役、本社閉館時刻22時→21時
- 2012年 職場主体によるWLB向上の取組み開始(取組み計画表策定)
- 2013年 「Work@A～味の素流働き方改革～」の立ち上げ
- 2014年 スーパーフレックス、時間単位有休、テレワーク(在宅勤務制度等)
- 2015年 「ダイバーシティ&WLBコンセプト」策定、
味の素・ウーマンズ・カウンスル立ち上げ
モーニング無料提供、本社閉館時刻21時→20時
- 2016年 WLB休暇(3日間/年)導入、企画・専門型裁量労働制導入、
毎週水曜日No残業Day(18時)
- 2017年 始終業時刻前倒し、所定労働時間20分短縮、
「どこでもオフィス」導入、
本社閉館時刻20時→19時、毎週水曜日No残業Day(17時)
- 2018年 WLB休職制度導入 会社休日新設(5月2日)

「働き方改革」の施策（骨子）

「働き方改革」で生まれた価値（原資）を
人財に再投資する

マネジメント改革
（経営主導）

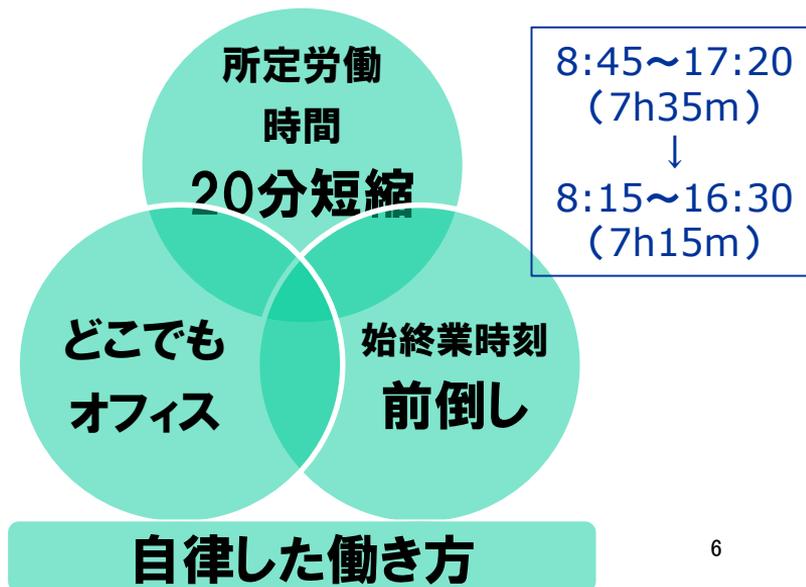
「働き方改革」推進体制の刷新
人事only⇒全社横断チーム

「職場懇談会」×「職場課題検討会」
本質課題議論⇒経営へ提言

「時間生産性」の目標化
経営⇒組織⇒個人

「会議改革」と「メール改革」

ワークスタイル改革
（個々人が取り組む）



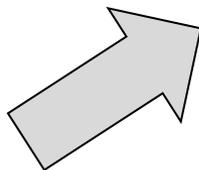
ワークスタイル改革 どこでもオフィス(テレワーク)導入

～「どこでもオフィス」導入～

ルール×基盤整備×風土醸成により、「どこでもオフィス」を推進

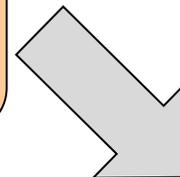
ルール策定(緩和)

- ・週1回の出社以外は利用制限なし
- ・申請は前日まで、事後報告不要
- ・業務内容・場所は問わない
- ・育児・介護との併用可



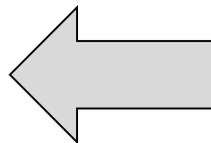
風土醸成

- ・基幹職は週1回「どこでもオフィス」
- ・テレワークデー本社実施
- ・サテライトオフィス利用料は
全社負担(部門負担なし)



基盤整備

- ・軽量PCの全社導入
- ・社宅サテライトオフィス化
- ・社外サテライトオフィス契約
- ・モバイル勤務履歴(VPN)の開示

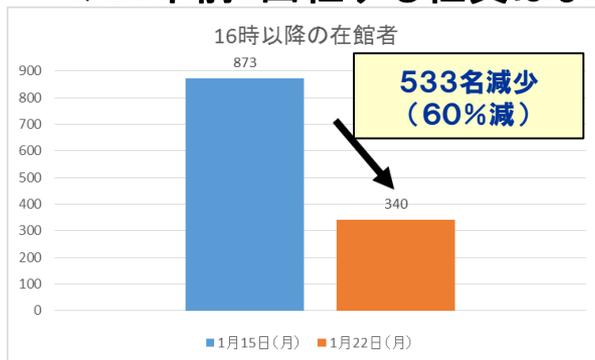


ワークスタイル改革 どこでもオフィス(テレワーク)導入

■降雪時の活用

1/22午後:社員は次々退社し、16時にはまばら ⇒早く帰宅し自宅で仕事

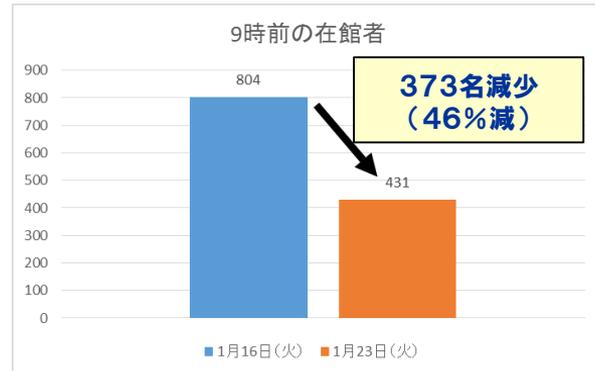
1/23午前:出社する社員はまばら ⇒どこでもオフィス前提で前日から備え



降雪の2日間で600名(60%)が
1度は「どこでもオフィス」を利用

1/23 10:00時点

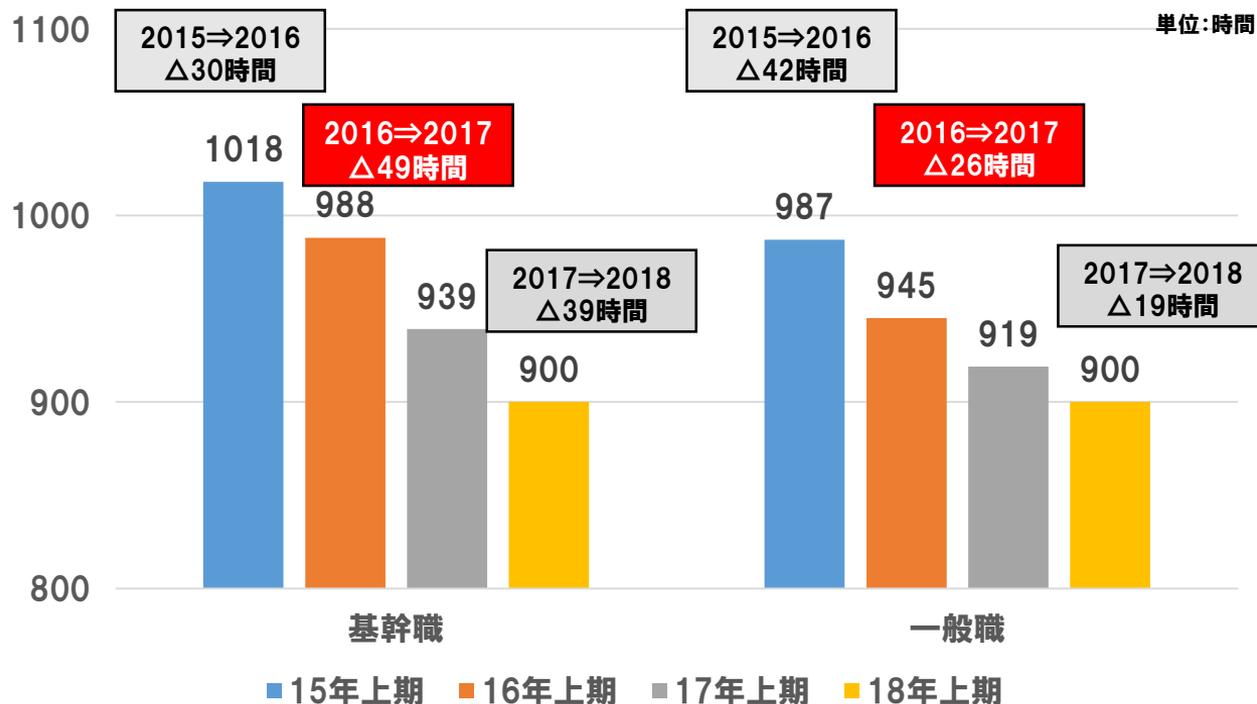
← 出社は5人
20人は「どこでもオフィス」等

働き方改革 2017年上期レビュー(総実労働時間)

～総実労働時間 17年上期マイナス32時間～

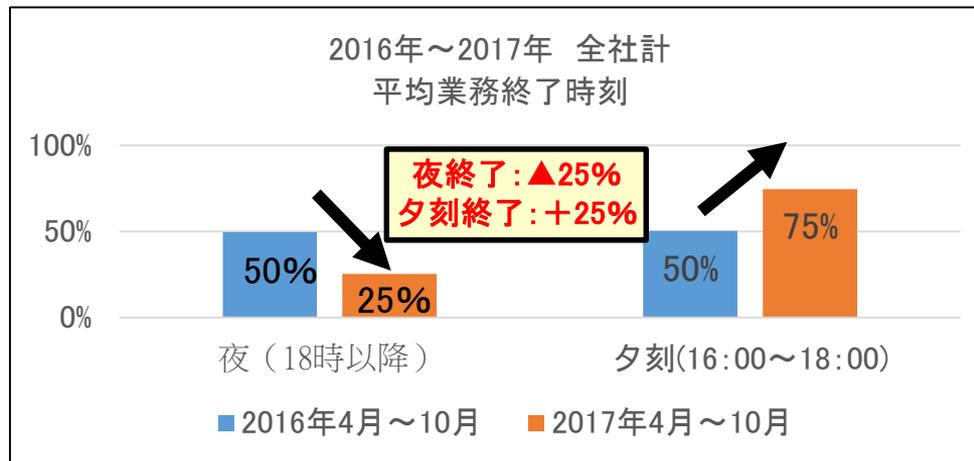
総実労働時間は上期で、基幹職△49時間、一般職△26時間 両者計:△32時間



働き方改革 2017年上期レビュー(平均業務終了時刻)

～従業員の75%が平均18時前終業に～

「朝・昼・夜」の1日3区分の生活から、「朝・昼・夕・夜」の1日4区分の生活へ



■ 生み出された「夕方」の使い道(例)

自己研鑽

- ・英会話レッスン
- ・ビジネススクール

心身の健康

- ・ジムでエクササイズ
- ・新たな趣味にチャレンジ

家事・育児

- ・平日に家族みんなで夕食
- ・子どものお迎え

男性従業員の
新たな参画

ある社員の変化



今後の課題

- ・フルタイムで働ける
人との差をいかに
埋めていけるか
- ・そのための知識や
スキルを、時間制約
がある中で、どう
習得していくか
- ・第2子、
どうしようかな...

今後の取り組み

平均総実労働時間のロードマップ

FY2007(実績)
2,039時間

FY2016(実績)
1,890時間

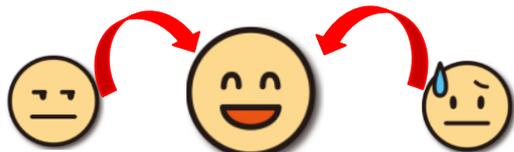
FY2017(見込)
1,800時間+ α

FY2018(目標)
1,800時間

FY2020(目指す姿)
1,750時間未満

味の素(株)として一層の進化

変化に適応しながら、皆が先進的な働き方へ



様子見層

困惑・悩み層

業務の標準化・自動化

基幹システム更新、AI・RPA・ICT等の活用

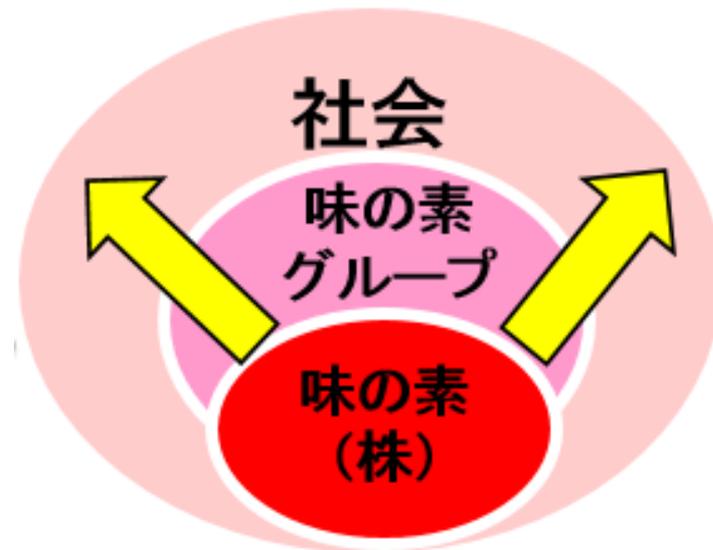
働き方の高度化・職場環境整備

コミュニケーションツールの充実、ペーパーレス・フリーアドレス等

人財への投資

健康増進、人財育成、多様なライフスタイル応援

グループ会社へ波及・展開
グループ全体での働き方改革へ



Eat Well, Live Well.



ご清聴ありがとうございました